

(様式2) 平成29年度〔自己評価報告書〕

学校番号	5	学校名	川崎市立臨港中学校	校長名	藤澤朋二郎
------	---	-----	-----------	-----	-------

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他を愛し、素直で誠意ある人の育成</li> <li>・責任感強く、たくましく勇気ある人の育成</li> <li>・礼儀正しく、質実清楚な人の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を定着させるとともに、明るく生き生きとした学校づくり</li> <li>・教科指導を充実し、「生きる力」を育む学校づくり</li> <li>・道徳指導を充実し、お互いの個性を認め合う学校づくり</li> <li>・家庭や地域から信頼される学校づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を身につける中で、自分の良さをみつけ生活を向上させる力を育む</li> <li>・互いの個性や特性を理解しあい、より良い人間関係を築いていく力を育む</li> <li>・学習指導を充実させる中で、基礎・基本の定着を図り、「生きる力」を育む</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	実現状況(○)及び課題(▽)	具体的な改善策
1 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全、安心な教育環境の提供</li> <li>教育環境の充実</li> <li>学習環境の充実</li> </ul>	<p>▽「学校生活は楽しい」「臨港中に入学してよかった」答える生徒は、各学年とも約8割の回答である。その評価が昨年度と比べると10ポイントほど下がっている。「あまりそう思わない」の回答が増加したことは大きな問題と考えている。保護者の回答も同傾向にある。</p> <p>▽今年度空調設備の度重なる故障で、冷暖房とも大変迷惑をかけてしまった。その結果、学校の施設・設備面での満足度が昨年度同様4割程度にとどまっている。</p> <p>○学校が事故防止のため点検など配慮しているとの回答は7割以上あり、校舎増築関連工事の現状を理解してもらっている。</p> <p>○休日の授業参観、公開授業、学年ごとの授業参観など回数には6割の保護者が評価しており、参加者も増加している。</p> <p>○生徒増や生徒指導の問題行動増加に対して、教員数の減少の問題点が各所に影響がでてしまったが、職員は多忙化の中でも各自しっかり役割を果たした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活全般について肯定的な回答が昨年度に比べ減少傾向にある。より自尊感情、自己肯定感を高め、自信を持って行動できる生徒の育成を図りたい。</li> <li>・保護者の評価も下がる傾向がみられ、厳粛に受け止めている。より開かれた学校にするため、いろいろな手段で情報発信を図るとともに学校運営に危機感を持ち臨みたい。</li> <li>・創立70年を越え、校舎の各所に老朽化がみられる。設備点検や修繕を定期的に行い安全管理に努めたい。また、教材教具の更新に努め、教育環境をより整えていきたい。</li> <li>・基本的な操作手順を再確認し、校務支援システムをより効果的で円滑に運用を図りたい。</li> <li>・教職員間でのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を強め、組織として連携して取り組んでいこうしていきたい。</li> <li>・授業参観は本校にとって重要な意義があると考え、今後もより参観者を増やせるように維持していきたい。</li> </ul>
2 教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上に向けた授業改善の充実</li> <li>基本的な学習習慣の確立</li> </ul>	<p>▽8割の生徒が「授業はわかる」「しっかり聞き、考える」と回答しているが、昨年度をやや下回っている。</p> <p>○「意欲を持って授業に参加できるよう授業の改善・工夫をしている」の教員の回答は8割をこえており、昨年度よりかなり上昇している。「学力が向上した」「公平に評価されている」の生徒の回答は5割程度ではあるが、昨年度よりも10ポイント上昇している。</p> <p>▽保護者については教科指導全般について肯定的な意見が5割程度であるため、引き続き教育課程説明会での評価内容、資料、対象をより分かりやすく説明していくとともに、学力向上の取り組みの理解を得ることに努めたい。</p> <p>○授業力向上のため、各種校内研修を実施した。今後も計画的に授業方法の工夫や改善の取り組みを継続していきたい。</p> <p>▽キャリア在り方生き方教育の系統的な位置づけができなかった。より研修を深めていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ねらいにどうせまっていたか」「ころを揺さぶる発問」をテーマに校内授業研究を行いグループ協議で研修を深めたが、今後も継続して実施していきたい。</li> <li>・数学科の研究推進をうけることで、学校全体で基礎基本を定着させ、学力の向上に向け意識を高めていきたい。また、「わかる授業」を今後も重点的に行うため指導内容、指導計画を検討していきたい。</li> <li>・保護者との共通理解を図り家庭学習の習慣化に努めたい。</li> <li>・今年度各自の授業数の増加もあり十分ではなかった支援教育を充実させ、入り込みの支援活動により基礎基本の定着を図るようにしていきたい。</li> <li>・適切な評価評定についての学校として統一されたものとするため、年度の初めにその研修会を開催し、信頼性・公平性のある評価評定の研究および推進に努めたい。</li> <li>・キャリア在り方生き方教育を意識した教科指導について研修を深めていきたい。</li> </ul>
3 道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全般を通じた豊かな心の育成</li> <li>授業研究を通じた指導法の改善</li> <li>授業時数の確保</li> </ul>	<p>○今年度も「話し合い活動を通して本音の言い合える道徳の授業展開の工夫」を研究主題に研鑽を積んだ。年間計画も見直し、今後の教科化に向けた研修もできた。</p> <p>○授業前の学習会や、学年会で道徳資料の確認を行い、効果的に道徳の授業ができた。またできるだけ授業時間の確保につとめた。</p> <p>▽特別な教科「道徳」に向けた準備を本格的に始める必要性を感じている。</p> <p>○保護者の意見として「人権意識を育てている」「社会のルールを教育している」の回答が例年と同じく6割をこえている。</p> <p>○共生共育プログラムの計画的な実施ができ、効果をあげている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科化に向け研修を深め人権尊重意識を高める工夫をしていきたい。特に道徳の時間の確保に努めたい。</li> <li>・今後も共生共育プログラムを計画的に5回実施し、効果測定を有効に活用していきたい。</li> <li>・「私たちの道徳」をより有効的に活用するとともに、学年中心に研修を深めたい。</li> <li>・「いのちの授業」を今後も継続して実施し、人権尊重教育を推進していきたい。</li> <li>・月1回の学年会でその月の道徳の内容検討、進め方を確認して実践していきたい。</li> <li>・人権尊重教育の全体計画を見直したが、学校生活全般で人権意識を高めるよう今年度行った取り組みを来年度も継続して実施していきたい。</li> </ul>

4	特別活動	<p>生徒一人一人の個性を尊重し、自立を促す指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の充実と、各種行事の活性化</li> <li>・互いに信頼し、協力し合える生徒集団の育成</li> </ul>	<p>○8割の生徒・保護者が「学校行事は楽しく充実している」と回答している。各種行事に満足している状況である。行事を通して協力し合える生徒集団の育成を図り、生徒・保護者ともに充実した活動と高い評価を得ている。</p> <p>▽2学年の割合が他学年に比べて低くなっているが、昨年度よりも上昇している。</p> <p>▽「部活動が充実」についての回答は全学年とも7割程度と低くなっている。また、保護者の回答も6割と低い。部活動のあり方について研修を深める時期と考える。</p> <p>○70周年行事発表を生徒会役員が中心となり自主的に運営することができた。</p> <p>▽全学年ともに「環境美化に積極的に取り組んでいる」の回答が6割と低い。清掃などの奉仕的活動を自主的に推進できるような取り組みを実施していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70周年の諸行事に伴い、生徒の自主的な活動ができたが、それをいかし生徒会本部や委員会活動をさらに活性化し、できるだけ生徒が前面にたつ活躍できる場面をより多く設定していきたい。</li> <li>・生徒一人一人の個性を尊重し自立を促すよう、学校行事、生徒会活動をさらに充実させていきたい。</li> <li>・総括教諭をリーダーとして研修や支援を計画したい。</li> <li>・自己肯定感を育むため、部活動を活性化するとともに研修を深めたい。今後の生徒増に対応し、生徒の活動の場を保証するため、部活動の新設(運動部・文化部)も考えていきたい。</li> <li>・校庭が狭くなり、部活動の活動場所、安全対策などを配慮していきたい。また、体育祭の保護者席も十分確保していきたい。</li> </ul>
5	生徒指導	<p>基本的な生活習慣の確立と生徒理解の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や服装などの基本的な生活習慣の確立に向けた指導の徹底</li> <li>・相談活動の充実と生徒理解の充実</li> </ul>	<p>○年間3回の教育相談期間を設けて、生徒の状況把握に努めた。6割の保護者が「子供のことをよく理解している」と回答している。より向上できるよう努めた。</p> <p>○「挨拶ができてきている」の回答は生徒、保護者ともに7割と高くなっている。</p> <p>「時間」「挨拶」「服装」「清掃」についてより向上できるよう努めた。</p> <p>▽「気軽に先生に相談できる」の回答が1・3年で約40%、2年生は50%と低い。昨年度に比べると減少している。なかなか寄り添った指導・支援が厳しい状況もみられている。</p> <p>▽校内外での生徒指導事案件数が増加してきている。保護者や地域からの指摘も多くなってきており大きな課題と考えている。</p> <p>▽「どの教師も同じ方針で生徒指導している」の回答が生徒、保護者ともに3割程度に大きく減少している。教員間での共通理解をより図っていく必要がある。</p> <p>▽生徒指導で事後処理に追われることが多くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通理解を図るため、年度初めに全職員により生徒指導方針を確認する。また、夏季研修でも生徒指導の情報交換、研修を実施する。</li> <li>・年間3回の教育相談期間の設定は重要な位置を占めている。今後も生徒がより多くの教員と気軽に相談できる環境づくりに努めたい。</li> <li>・今後も朝の打ち合わせ、職員会議、主任会で全職員共通に情報が共有できるようにするとともに、報告、連絡、相談を徹底したい。</li> <li>・他機関との連携は本校の状況から重要なポイントと思われる。今後も生徒指導担当を窓口学年主任、スクールカウンセラー、総括教諭との連携を強化していきたい。</li> <li>・いじめ防止がイドラインをもとに、いじめのない「笑顔の学校」作りに努める。</li> <li>・部活動指導における健全な指導の在り方を顧問会が中心となり研修を行いたい。また、体罰は絶対許されない指導体制を構築していく。</li> </ul>
6	特別支援教育	<p>特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を必要とする生徒一人一人の教育的ニーズに応えたきめ細かな教育の実践</li> </ul>	<p>○特別支援教育に対する職員の意識も高まっている。とくに毎月の職員会議の中で特別支援COからの情報提供や研修報告により全職員の共通認識が図れた。また、毎週の主任会にスクールカウンセラーも出席し情報交換できた。</p> <p>○通常学級に在籍している支援を必要としている生徒に対して可能な限り支援をしてきたが、授業時間数の増加で入り込みや、取り出し等が思うようにできなかった。学年を越えて全職員で当たる体制は整っている。</p> <p>○相談指導学級(情緒級)の運営がきめ細かくできた。ただ、年度途中より在籍生徒が増え、対応が十分にできなかった面もある。</p> <p>○個別にケース会議なども実施し、問題を抱える生徒・家庭の理解に努めた。</p> <p>▽不登校生徒がまだまだ多い状況を改善できなかった。個々家庭環境も違い厳しい面もみられたが、粘り強く対応してきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常級に在籍しているものの、学習面や生活面で特別な支援、配慮が必要となる生徒が増加してきている。その対応について校内組織、支援体制、相談体制の整備を進め、組織的に取り組むと同時に関係他機関との連携により努めたい。</li> <li>・来年度は、スクールカウンセラーなどにより発達障害などの校内職員研修を行い理解を深めたい。</li> <li>・保護者への説明と相談活動が円滑に行えるよう努めたい。</li> <li>・特別支援教育推進委員会の取り組みの活性化を促すとともに、毎週1回の特別支援支援CO、生徒指導担当、養護教諭、スクールカウンセラーによる情報交換会を今後も継続していきたい。</li> </ul>
7	健康安全管理	<p>生徒の健康、安全を守る教職員の意識を高め、事故の防止に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急対応マニュアルを作成し、危機管理意識を高める</li> </ul>	<p>○薬物乱用防止教室、熱中症予防講演会など実施した。警察や校医さんとの連携も深めることができています。また、性に関する講演会も保健福祉センターの協力で実施できた。また、給食開始に伴うアレルギー-対応について緊急時の適切な処置の研修を実施した。救急法の実技研修も実施できた。</p> <p>○避難訓練、防災訓練も計画的に年間3回実施した。</p> <p>○定期的な安全点検活動を実施できた。</p> <p>○校舎の老朽化に伴い修繕が必要なところを迅速に対応して安全確保に努めた。</p> <p>▽まだまだ、大規模な修繕や修理が必要な箇所がある。環境整備推進室と連絡を取り合って計画的に進めたい。</p> <p>○学校保健委員会を開催し、校医、PTA、生徒代表、保健指導部職員で協議し学校の健康安全意識の向上に努めた。特に保健委員の生徒の継続的な取り組みは一般生徒の健康管理の意識向上に結びついていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も保健委員会の生徒の取り組みや、校医さんとの連携を深めることで、学校生活の健康安全管理推進に努めたい。</li> <li>・校舎の老朽化もあるため、各箇所の管理責任を明確にして、点検活動を定期化し、安全管理に努めたい。</li> <li>・地震や津波に対する避難方法の指導、防災面での地域での中学生の役割などについても研修を深め、防災意識を高めていきたい。地域の避難所運営会議と連携し、職員の研修会を行いたい。</li> <li>・他機関と連携し講師を招いて各種の健康面での講演会を計画的に実施していきたい。</li> <li>・全職員が誰でもAEDの使用ができ心肺蘇生法を習得するとともに、給食に伴うアレルギーの緊急対応ができるよう研修を深め緊急時に即応できるようにしていきたい。</li> <li>・学校保健委員会での生徒の発表を生かし、研究協議を深め、生徒の健康面での状況把握に活用していきたい。</li> </ul>

8	保護者・地域との連携	生徒の健全育成に向けた連携 ・教育活動全般にわたる支援とPTA会員相互の理解の伸張 ・地域教育会議との連携 ・小中連携教育の推進	○ほとんどの職員がPTAの行事や地域教育会議主催の行事などに積極的に参加し、相互理解に努めた。 ▽地域教育会議や地域の催しで、かなりボランティアでの参加として負担をかけている面がある。 ○学級懇談会や三者面談の機会を通じて生徒の現状、学校の現状などを積極的に情報提供できた。 ○小中連携事業を推進し、教職員の合同研修会も開催するなど相互理解を深めることができた。小学校との連携は重要で今後も継続して取り組んでいきたい。 ○地域教育会議の主催による夏の体験学習事業は本校にとって非常に有意義な取り組みと考える。その他の催しにも積極的に参加がはかれた。 ▽地域の変容から、地域という意識が薄くなってきている現状もみられる。 今後の対応を探っていく必要性を感じる。	・本校にとって地域教育会議との連携は重要な位置を占めている。今後も学校づくりを促進するため地域やPTAとの良い協力関係を深めていきたい。 ・まだまだ学校からの積極的な情報提供が不足していると感じている。ホームページの更新をよりきめ細やかに行い充実した内容の情報を発信できるよう努めたい。 ・小中連携をさらに推進し、児童生徒理解につなげたい。 ・地域やPTAの協力を得ながら計画的に関連諸行事に取り組んでいきたい。 また、部活動単位での参加体制に加えて、他の生徒の意欲的な参加を募りたい。
---	------------	---	---	---

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
3月に学校教育推進会議あり。現在までの諸会議での意見など ・町会長 中学生が地域の行事に多く参加していて非常に感謝している。部活動単位でもよいのだが、できればより多くの地域生徒が参加できるとさらによいのではないかと。 最近中学生が公園で騒いだり食い散らかしたりという情報が多くなっている。学校側の苦勞もわかるが今後とも指導をしっかりやってほしい。 周年行事で、生徒のしっかりした態度を見ることができた。 ・PTA会長 今後PTAとして地域教育会議と連携し、さらに学校に協力していきたい。 ・地域教育会議議長 夏の体験学習活動の取り組みに中学生がより多く参加できるよう今後もお願いしたい。 中学生が地域で活動できている事はすばらしい。今後地域で中学生がより活躍できる事は何かを中学校とともに模索していきたい。	・今年度からの生徒数増の中で、学校教育のあるべき姿をしっかり見定めて、家庭と地域との十分な連携・協力をもとに、学校運営を推進してきたが、教員数の減などで対応に不十分な面があった。 ・日々起こる生徒の問題に対応し、協力して解決へとつなげることができた。次年度も、いじめや体罰のない学校を目指し、「笑顔あふれる学校」の精神と「時間」「服装」「挨拶」+「掃除」の3+1を生徒に浸透するようにしていきたい。 ・教育活動は生徒と教職員のふれあいに基づき、相互の信頼関係の上に進められていることを意識し、コミュニケーションを大切に、寄り添いながら支援・指導していきたい。 ・今まで通り学習指導と生徒指導を大切にしていこう。また、他校との関係や外部機関との一層の連携を図っていく必要がある。 ・学習面への期待の声がアンケートから強く感じられる。「分かる授業」をキーワードとし、基礎学力が不足している生徒への支援・指導のあり方を探りつつ、分かる授業・楽しい授業づくりに取り組んでいきたい。特に数学科の研究推進を軸に学校全体を挙げて取り組んでいきたい。 ・支援教育の校内体制を充実させたい。非常勤講師の加配を申請し、より充実した支援教育を目指したい。 ・全国学力・学習状況調査の結果から見える基礎学力、自尊感情・規範意識の低さを認識し、その向上に努めていきたい。 ・給食指導の充実を図り、スムーズな運営をおこなってほしい。また、食育の推進を行いたい。 ・生徒の自主的な活動を促し、自信を持たせるようにしていきたい。また、キャリア在り方生き方教育、人権尊重教育の推進を重点的に進めていきたい。